

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福 島 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福島県耶麻郡塩川町立塩川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	2	1	14	19
児童数	64	59	58	73	56	75	1	386	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成 ～算数科の学習を通して～」
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

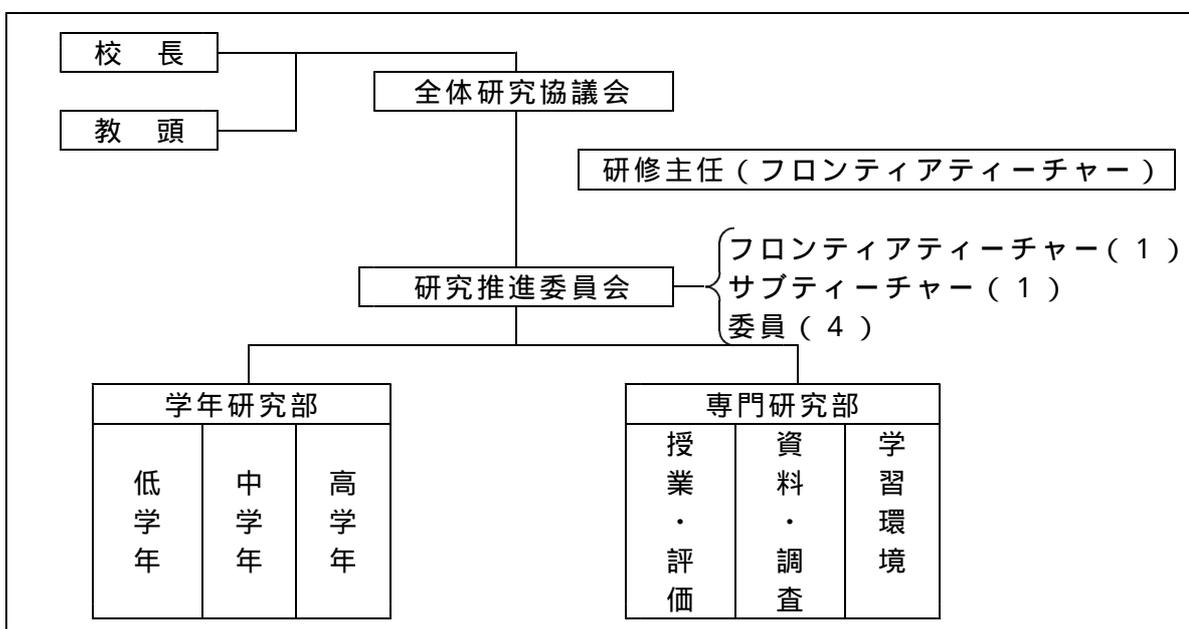
<p>実施学年：全学年                  教 科：算数科                  選択理由                  算数科は、1年からの積み重ねと系統的な指導が大切な教科である。また、他の教科より意欲や学力面で個人差が大きくなる教科である。本校でも、これまで学力向上プランのもとに研究を進めてきたが、上記の課題解決までには至っていない。そこで、全学年で算数科に焦点を置き研究を進めることにした。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ                  「個に応じた指導法・指導体制の工夫～T・Tや少人数指導の導入」                  研究の見通し                  T・T指導や少人数指導などを取り入れ、個に応じた多様な学習方法を工夫すれば、より確かに基礎学力の定着が図られるであろう。                  研究の内容・方法                  * 日常の授業実践を基本においた研究を推進する。                  指導体制の工夫・・・T・T指導の多様な進め方と活用                  学習方法の工夫・・・習熟度別やコース別等の多様な学習形態の展開</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「個を生かし、伸ばす支援の工夫～発展的な学習の位置づけ～」</p> <p>研究の見通し 繰り返しの学習や発展的な学習など児童の学習状況に応じた教材を工夫すれば、より確かな学力の向上が図られるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 * 15年度の研究成果と課題を土台に実践を進める。 実態に応じた指導過程の工夫・・・評価規準の効果的な活用と指導の工夫 学力向上を図る教材の工夫・・・繰り返しの教材、発展的な教材等の開発</p>
----------------	---

### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 1. 指導体制の工夫

個に応じた指導を充実させるために、T・T指導をいかに効果的に活用するか、実践を通しながら、研究を深めてきた。

日常的には、「担任がT1として全体指導を行い、T2が下位児への支援にあたるという体制をとっている学年」、「2学級を均等な3クラスに編成して、少人数指導体制をとっている学年」、「学期毎に習熟度別コースを編成し、少人数指導体制をとっている学年」など、児童の実態に応じて指導体制は異なっている。

本年度の実践では、T・T指導における役割分担の明確化や、基礎基本の定着のために、小単元末に習熟を図る時間を位置づけて、少人数体制のクラスを習熟度別コースに編成し直して、個に応じた指導を行うなどの試みが成果としてあげられる。

基本的には、どのような指導体制においても、何のための指導であるか明確であることと、子ども自身にしっかりとめあて意識を持たせ、主体的に取り組めるように支援することが大切であるということを確認し合った。

## 2. 指導方法の工夫

個に応じた多様な学習方法としては、

自力解決の段階で、一人一人に解決の見通しを持たせて、解決する喜びを味わわせるために、算数コーナーの掲示物等を生かしながら、前時までの既習事項を想起させる導入を工夫した。見通しを持つ段階で、多様な方法を確認した後、一人一人が自分なりにやってみたいと思う方法を選択して、取り組んだことで、意欲的に課題解決に取り組もうとする意識や態度が育ってきた。

考えを練り上げる段階では、個の取り組みを把握して、意図的に発表させることで、一人一人の考えのよさや違いに気づかせることができた。

練習問題に取り組む際の個人差を考慮して、「易から難へ」の問題を数多く準備することで、一人一人が意欲的に問題に取り組み、充実感を味わえるようにした。

習熟度別コース学習を導入する際には、チェックテストを実施して、その結果を参考にして、児童自らコースを選択するなど、児童に学習への目的意識を持たせるように配慮した。

コース別学習では、それぞれのコースの実態に応じた指導方法を工夫することで、個の良さをのばし、成就感を味わわせることができた。

## 2. 今後の課題

習熟度別コースなどで、個の良さをより一層伸ばす指導体制を取り入れる場合は、個に応じた指導が一層効果的にできるように、個の実態に適した教材であるかどうか、十分吟味する必要がある。

T・T指導では、児童の実態や学習内容に応じて、いろいろな指導体制を取り入れたり、役割分担を入れ替えたりするなど、柔軟に対応できる体制を整えていく必要がある。

学ぶ喜びや充実感を味わいながら、確かな学力が定着するように、より適切に個の実態を把握するための工夫と、意図的な個への支援を充実させていかなければならない。

### 学力等把握のための学校としての取組

1. 学力テスト(NRT) 基礎学力習熟度を調査 (1月末)

2. 学習基礎調査 学習習慣、意欲、態度等の実態把握と変容調査(学期末)

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 1, 平成15年度

9月：授業公開(1年)、研究概要の説明と資料集の配布(町内の学校対象)  
教育講演会「授業で、自ら学ぶ意欲を育てること」  
研究集録発行

### 2, 平成16年度(予定)

10月：授業公開(全学年)  
教育講演会  
研究集録発行

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無